

令和2年度学校経営計画に対する評価計画(重点目標に対する各課・学年の取組)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考	
1	① 地域(生徒・保護者)の期待に応える学習指導と進路実現を達成するため、家庭学習習慣を「確かな学力の育成」を図る。	教務課 各学年 各教科	授業改善に取り組んでいるが、生徒が主体的・協働的に活動する場面がまだ十分ではない。	【成果指標】 生徒による授業評価を実施し授業改善に努める。	授業がわかりやすいと答えた生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C以下の場合 は取組を改善する。	生徒へのアンケート	
				【努力指標】 生徒が主体的・協働的に活動できる場面を取り入れている。	授業では生徒がアクティブラーニングやグループ活動など主体的・協働的に活動できる場面を、 ア.よく取り入れている。 イ.やや取り入れている。 ウ.あまり取り入っていない。 エ.取り入っていない。	A アとイの合計が80%以上 B アとイの合計が70%以上 C アとイの合計が60%以上 D アとイの合計が60%未満	C以下の場合 は取組を改善する。	教員へのアンケート
				【努力指標】 授業改善に生かす目的を持って、互見授業に参加した。	授業改善に生かす目的を持って、互見授業に参加した。	A 6回以上参加した。 B 5回以上参加した。 C 4回以上参加した。 D 4回未満参加した。	C以下の場合 は取組を改善する。	教員へのアンケート
	② 家庭学習時間調査と個人面談を行うことで家庭学習習慣の定着を図り「確かな学力」を育成する。	教務課 各教科 各学年	家庭学習習慣が身につけていない生徒、家庭学習時間が不十分な生徒が多く、家庭学習習慣の定着が求められている。	【成果指標】 普通科では学年+30分の家庭学習が確保された。	(普通科1年) 90分の家庭学習に対する取り組み状況が、 普通科では学年+30分の家庭学習が確保された。 80%以上達成の生徒数をa 60%以上達成の生徒数をb 60%未満の生徒数をc とし、段階的に評価する。 $(1.0 \times a + 0.9 \times b + 0.7 \times c + 0.5 \times d) / 40 \times 100$ (%) で計算した結果、学習時間を達成できている人数の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C以下の場合 は取組を改善する。	月毎にクラスの学習記録を集計	
				【成果指標】 普通科では学年時間の家庭学習が確保された。	(普通科2年) 120分の家庭学習に対する取り組み状況が、 普通科では学年時間の家庭学習が確保された。 100%達成の生徒数をa 80%以上達成の生徒数をb 60%以上達成の生徒数をc 60%未満の生徒数をd とし、段階的に評価する。 $(1.0 \times a + 0.9 \times b + 0.7 \times c + 0.5 \times d) / 40 \times 100$ (%) で計算した結果、学習時間を達成できている人数の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C以下の場合 は取組を改善する。	月毎にクラスの学習記録を集計	
				【成果指標】 普通科では学年時間の家庭学習が確保された。	(普通科3年) 180分の家庭学習に対する取り組み状況が、 普通科では学年時間の家庭学習が確保された。 100%達成の生徒数をa 80%以上達成の生徒数をb 60%以上達成の生徒数をc 60%未満の生徒数をd とし、段階的に評価する。 $(1.0 \times a + 0.9 \times b + 0.7 \times c + 0.5 \times d) / 40 \times 100$ (%) で計算した結果、学習時間を達成できている人数の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C以下の場合 は取組を改善する。	月毎にクラスの学習記録を集計	
				【成果指標】 地域産業科では提出物を期限内に提出することができた。	(地域産業科1年) 提出物や課題を提出期限内に提出することができた。 ア.すべて提出した。 イ.大体提出した。 ウ.あまり提出しなかった。 エ.ほとんど提出しなかった。	A ア.イの合計が90%以上 B ア.イの合計が80%以上 C ア.イの合計が70%以上 D ア.イの合計が70%未満	C以下の場合 は取組を改善する。	月毎にクラスの学習記録を集計
				【成果指標】 地域創造科では提出物を期限内に提出することができた。	(地域創造科2年) 提出物や課題を提出期限内に、必ず提出した。 ア.ほとんど提出した。 イ.ほとんど提出した。 ウ.あまり提出していない。 エ.提出していない。	A ア.イの合計が90%以上 B ア.イの合計が80%以上 C ア.イの合計が70%以上 D ア.イの合計が70%未満	C以下の場合 は取組を改善する。	月毎にクラスの学習記録を集計
				【成果指標】 地域創造科では提出物を期限内に提出することができた。	(地域創造科3年) 提出物や課題を提出期限内に、必ず提出した。 ア.ほとんど提出した。 イ.ほとんど提出した。 ウ.あまり提出していない。 エ.提出していない。	A ア.イの合計が90%以上 B ア.イの合計が80%以上 C ア.イの合計が70%以上 D ア.イの合計が70%未満	C以下の場合 は取組を改善する。	月毎にクラスの学習記録を集計
	③ 各課・各教科と学年団との連携と情報の共有化により生徒個々に応じた多面的な進路指導を行い、生徒が進路実現に向けて意欲的に学習などに取り組める環境づくりを進める。	進路指導課 各学年	進路希望先を具体的に決定するのが遅れるため、進路実現に向けて準備期間が不十分になる傾向がある。	【成果指標】 年度末までに進路目標を定め、次の行動を意識することができた。	(1年) 年度末までに、進学はおおまかに上級学校を、就職はおおまかに職種を定め、次の行動を意識できた生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C以下の場合 は取組を改善する。	・進路希望調査 ・生徒へのアンケート	
				【成果指標】 年度末までに具体的に進路目標が定まり、実現に向け準備を始めた。	(2年) 年度末までに、進学は具体的な上級学校を、就職は具体的な職種を定め、実現に向けて準備を始めた生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C以下の場合 は取組を改善する。	進路希望調査 生徒へのアンケート	
				【成果指標】 進路先決定までに十分な準備ができた。	(3年) 中間評価では就職、最終評価では進学において、合格を得るまでに十分な準備ができたことと回答した生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C以下の場合 は取組を改善する。	・進路希望調査 ・生徒へのアンケート	
④ 進路指導課と1学年学年団・担任と連携により、進路面接の質を高め、面談回数を増やすことで進路目標の早期決定を促す。	進路指導課 第1学年	進路目標の設定が遅れ、自己実現のために授業や総合的な学習の時間を有効に活用できていない生徒がいる。	【努力指標】 生徒の進路意識を高めるために生徒との個人面談を実施した。	生徒一人一人との個人面談回数が、 A 6回以上 B 5回以上 C 4回以上 D 4回未満	C以下の場合 は取組を改善する。	・個人面談数調査 ・生徒へのアンケート		
			【努力指標】 生徒の進路意識を高め具体的に進路を決定するために生徒との個人面談を実施した。	生徒一人一人との個人面談回数が、 A 7回以上 B 6回以上 C 5回以上 D 5回未満	C以下の場合 は取組を改善する。	・個人面談数調査 ・生徒へのアンケート		
			【努力指標】 生徒の進路実現に向けて個人面談を実施した。	生徒一人一人との個人面談回数が、 A 7回以上 B 6回以上 C 5回以上 D 5回未満	C以下の場合 は取組を改善する。	個人面談数調査及び生徒へのアンケート		
⑤ 今後を見据えた進路指導に取り組み、具体的な進路目標の決定を面談を利用して促すこと「確かな学力の育成」を図る。	進路指導課 第2学年	目標が定まらず進路実現へ向けての具体的な取り組みが足りない。進路決定に向けて授業を有効に活用していない生徒への指導が必要である。	【努力指標】 生徒の進路意識を高め具体的に進路を決定するために生徒との個人面談を実施した。	生徒一人一人との個人面談回数が、 A 7回以上 B 6回以上 C 5回以上 D 5回未満	C以下の場合 は取組を改善する。	個人面談数調査及び生徒へのアンケート		
			【努力指標】 生徒の進路実現に向けて個人面談を実施した。	生徒一人一人との個人面談回数が、 A 7回以上 B 6回以上 C 5回以上 D 5回未満	C以下の場合 は取組を改善する。	個人面談数調査及び生徒へのアンケート		
⑥ 一人一人の進路目標に対するきめ細やかな指導を目指すべく個人面談をきめ細かに実施する。	進路指導課 第3学年	学業や部活動の両立を目指し、実際に両立させている生徒が徐々に増えつつある。目標意識の高揚も併せて、実力養成のための補習、資格試験、模擬試験においても頑張りを見せている。個人レベルでの自主・協調の研鑽を一層積み重ねる必要がある。	【努力指標】 生徒の進路実現に向けて個人面談を実施した。	生徒一人一人との個人面談回数が、 A 7回以上 B 6回以上 C 5回以上 D 5回未満	C以下の場合 は取組を改善する。	個人面談数調査及び生徒へのアンケート		

令和2年度学校経営計画に対する評価計画(重点目標に対する各課・学年の取組)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
2	① 安全、安心な学校づくりの推進による「規範意識・公心等の醸成」と、変化に対する社会に対応できる精神的な逞しさを備えた「人間力の育成」を図る。	生徒指導課 生徒会 各学年	「遅刻ゼロ運動」の取組も4年目となり、理由のない遅刻は減ってきたが、遅刻ぎりぎりの登校が各学年各クラスに若干名みられる。今年度も全校生徒で遅刻ゼロの日が増えるよう運動を続ける。余裕をもった登校が安定した学校生活につながり、時間を上手に管理する習慣を身につけさせたい。	【成果指標】 毎日の「遅刻0の日」の集計結果を生徒玄関の掲示黒板に示し、全校生徒が意識して取り組んだ。	遅刻0(ゼロ)の日が年間合計で、 A 120日以上 B 110日以上 C 100日以上 D 100日未満	C以下の場合 は取組を改善する。	毎日の出欠調査
	② 「いじめ調査」を月末に実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に努める。	生徒指導課 各学年	いじめ調査アンケートからでは見えない部分もあることを認識し注意を怠らない。学期はじめの面談週間や相談しやすい雰囲気づくりを心がける。また、メール等による誹謗・中傷などのいじめはなかなか発見しにくく、すべての教職員で生徒を見守る必要がある。	【努力指標】 いじめを見逃さない学校づくりに取り組んだ。	いじめ調査や巡回指導、面談などを行い、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に取り組んだ。 ア. よく当てはまる。 イ. やや当てはまる。 ウ. あまり当てはまらない。 エ. 当てはまらない。	C以下の場合 は取組を改善する。	教員へのアンケート
	③ 生徒会の「元気で活力ある健全明朗な学校づくり」の目標を実現するため、PTA等の協力も得て生徒がすすんで挨拶する運動を実施する。	生徒会 各学年 生徒指導課 PTA	前期・後期アンケート結果で、生徒が自らすすんで挨拶をしていると回答している割合は、H30(93.6%) R1(92.2%)の旨評値である。今年度も「おはよう！声かけ運動」の伝統を継続して行う。各学年においてものSH時や学年集会で大きな声で挨拶できる指導を続ける必要がある。	【成果指標】 自分から進んで挨拶をしている生徒が増えた。	「自分からすすんで挨拶している。」と回答した生徒の割合が、 A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	C以下の場合 は取組を改善する。	生徒へのアンケート
3	① 部活動加入後の積極的な活動を推進する。	生徒会	多くの生徒が部加入しているが、所属だけにとどまる生徒も見られ、上級生が積極的に部活動に取り組むよう指導する必要がある。 H30(89.4%)、R1(90.7%)。	【成果指標】 部活動に加入後も、積極的に活動していた。	積極的に部活動を行っている生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C以下の場合 は取組を改善する。	生徒へのアンケート
	② 教職員の多忙化改善に取り組む。	教頭	近年、本校教職員の勤務時間外勤務時間が減少してきているが、いまだ部活動指導時間や生徒と向き合う時間の確保と両立できておらず、職員のワークバランスを取る必要がある。	【成果指標】 適正な退庁時間である。帰宅していた。	職員の勤務時間外勤務時間の平均が、 A 45時間以下 B 50時間以下 C 55時間以下 D 55時間より多い	C以下の場合 は取組を改善する。	時間外勤務時間調査
	③ 悩みを持つ生徒に対し、全教職員が生徒に寄り添い、共感的に話を聞く時間を確保する。	保健厚生 教育相談	約86%の生徒が「先生方は親身になって相談に乗ってくれている」としている。しかし、約12%の生徒が不信感を抱いている。面談週間はもちろんだが、5分前5分後行動などを通して生徒をよく観察し、職員全体が親身に臨み、生徒に対応していという姿勢を示す必要がある。	【満足度指標】 教職員が生徒に対して、共感的に親身になって相談になることができた。	「先生方は親身になって相談に乗ってくれた。」と感じている生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C以下の場合 は取組を改善する。	生徒へのアンケート
4	① 地域における6次産業の担い手として、「地域産業の振興に貢献できる人材の育成」を図る。	地域産業科 地域創造科	能登町内外には各種イベントやボランティア活動があるが、生徒によっては参加しない傾向がある。全員の生徒が諸活動に参加し地域交流を一層深める必要がある。	【成果指標】 多くの活動がある中で2回以上参加することができた。	能登町内外の活動に2回以上参加したと答えた生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C以下の場合 は取組を改善する。	生徒へのアンケート
	② 保護者や地域の方に能登高校の理解を深めてもらい、行事に参加してもらうことで本校の人材育成に協力してもらう。	総務課	「能登高だより」の配布や能登町広報誌「のと広報」に連載することによって学校理解に効果があると考えられる。今年度も来校者を一層増やす工夫が求められている。様々なイベントとをからめ、PTAの参加人数を増加させていきたい。	【成果指標】 来校する保護者・地域住民が増えた。	来校された保護者・地域の方(学級懇談会・能登高祭・能登高商店開店時・教育ウィーク・PTA行事等)の人数の合計が、 A 1400人以上 B 1200人以上 C 1000人以上 D 1000人未満	C以下の場合 は取組を改善する。	行事毎の人数調査